

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立松浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上に向けて、校内研究での算数科を中心に授業研究に取り組んできた。発問を工夫したり、伝え合い、聴き合う対話的な学び合い活動を取り入れたりしてきたが、児童の学習に対する意欲の向上がまだ不十分である。また、児童の学力向上につながる自学ノートの取組についても検討する必要がある。今後も引き続き、児童の学習意欲を高め、学力向上につながるような授業づくりや自学ノートのあり方について全職員で研修を深めていく。 いじめアンケート以外に本校が定期的に行っている心のアンケートと教育相談週間については、友達関係などで悩んでいる児童の把握と問題解決に効果が上がっていると思われる。そのため、学校評価アンケートでは、保護者からも学校の対応に満足しているという意見が多くみられた。今後も継続して取り組んでいくことで児童が安心して通える学校を目指す。また、「ありがとうの木」や「かがやきの木」、各学級で行っている友達のよいところをほめあう時間については、内容を検討し、より子どもたちの心を耕す機会になるようにしていく。

2 学校教育目標	よく学び、よく鍛え、心やさしい児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 〇互いに考えを出し合い、高め合おうとする子ども 〇自他の人権を守る子ども
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を75%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・重点的に指導する内容を共通理解した上で各自がマイプランを作成し、日々の学習指導に反映することができた。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は100%であった。今後も共通理解を図り、授業力向上に努めていく。	A	・達成度が100%とは、とても素晴らしいと思う。マイプランの内容も公開してもらえたら、より先生方の努力や頑張りが見え、保護者や地域、関係者の関心度も高まるのではないか。	研究主任 学力向上対策コーディネーター	
	○児童の学習意欲を高め、学力向上につながる授業づくりの実践	○県学習状況調査における県平均との差算数0.1ポイント向上 その他は維持または向上させる。 ○児童アンケート「学習課題に対し、意欲をもって取り組むことができたか」の割合を75%以上にする。	・「授業づくりステップ1.2.3」を教職員間で共通理解し、授業改善及び指導の向上を図る。 ・主体的に取り組む児童を育成するために、学習スタイルを選択する活動を設定する。	B	・「授業づくりステップ1.2.3」を共通理解し、研究授業を参観するときの視点に取り入れた。また、日々の自分の授業を振り返る際にも活用するようしてきた。 ・主に算数の学習で学習スタイルを選択する活動を取り入れた。また、児童の発達段階に応じた活動内容を設定することができた。	B	・2月の意識調査では「自分の考えを友達に伝えようとしている」と答えた児童は85%、「友達の考えと比較して聞いている」と答えた児童は93%である。児童の多くが意欲的に学習をしている。 ・県の学習状況調査において5、6年生が県の正答率を下回っていた。基礎的・基本的な内容の定着と活用問題の取組を今後もしっかり必要がある。	B	・算数の学習スタイルを選択する活動を取り入れたとあるが、学習状況調査では、その効果は見られなかったのだろうか。 ・正答率の低い科目について、解答内容を精査し今後の取り組みを再考してください。		
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○各学年1回以上、自他の人権を守る大切さを学ぶ授業を実施する。 ○児童アンケート「友だちの気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができたか」の割合を75%以上にする。	・共通教材を用いた全学年での人権学習や人権教室を実施する。 ・夢の広場(人権教室)の年間計画を立案し、全職員で実施する。 ・年間を通して「ありがとうの木」「かがやきの木」を掲げ、感謝する心や思いやりの心等の意識付けを行う。	・共通教材を用いた人権学習を6年生で実施できた。他の学年は1月に実施予定である。 ・夢の広場(人権教室)は年間計画通り実施できた。感染症対策のためオンラインでの実施を試みた。 ・「ありがとうの木」「かがやきの木」は、運営・集金委員会を中心に計画通り実施できた。児童がお互いを認め合う風土づくりに役立っている。	B	・共通教材を用いた人権学習を6年生で実施できた。他の学年は1月に実施予定である。 ・夢の広場(人権教室)は年間計画通り実施できた。感染症対策のためオンラインでの実施を試みた。 ・「ありがとうの木」「かがやきの木」は、運営・集金委員会を中心に計画通り実施できた。児童がお互いを認め合う風土づくりに役立っている。	A	・全ての学年で共通教材を使った部落問題学習を予定通り実施できた。 ・6年生で部落史学習を、年間計画通り5回実施することができた。 ・「友だちの気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができた」と回答した児童の割合は77.5%だった。	A		・年間計画通りに学習を進められたのはよかった。授業を振り返っての児童の感想を聞いてみたい。 ・今後も人権意識向上のための学習に、目標をもって取り組んでください。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童全員との個別面談を実施する。 ○児童アンケート「体感活動で自分が将来やりたいこと結びつけて学習することができましたか」の割合を75%以上にする。	・「心のアンケート」を実施するとともに、担任が児童と個別面談を行う期間を年間に2回設定する。 ・毎週の職員連絡会で、気になる児童についての共通理解を図り、必要に応じてケース会議を開く。	A	・「心のアンケート」は計画通り2回実施できた。また、特別校時を組んで放課後の時間に余裕をもたせたことで、担任と児童の個別面談も実施できた。 ・毎週月曜日の連絡会で、気になる児童の共通理解ができていく。また、特に配慮が必要な児童(複数)についてその都度ケース会議を実施した。	A	・年2回、心のアンケートを実施し、その後児童との個別面談週間を設け、各担任が児童全員の実態を把握することができた。 ・毎週の連絡会で気になる児童について情報交換を行い、実態を共通理解することができた。 ・いじめについては校長、教頭、教務、生徒指導担当、担任でチームをつくり、対応にあたった。	A	・先生方の丁寧な取り組みに好感がもてた。特別校時を組んでの個別面談等を今後も続けてほしい。 ・児童の様子に合わせて対応については細心の配慮をもって対応してください。		
○地域人材を生かした体験活動	○コミュニティセンターと協力し、地域人材を生かした学習を年に1回以上行う。 ○児童アンケート「体感活動で自分が将来やりたいこと結びつけて学習することができましたか」の割合を75%以上にする。	・地域学習において、ゲストティーチャーを積極的に招く。	・総合的な学習の時間や生活科、各教科の学習内容と関連させ、地域の方を招いたり訪問したりしての体験活動ができた。 ・来年度以降の活動の参考にするため、児童へのアンケートを3学期に実施する。	B	・総合的な学習の時間や生活科、各教科の学習内容と関連させ、地域の方を招いたり訪問したりしての体験活動ができた。 ・来年度以降の活動の参考にするため、児童へのアンケートを3学期に実施する。	B	・地域の方と連携した活動を行うことができた。反省を踏まえ来年度も継続していきたい。 ・アンケートでは、生活科や総合的な学習の時間に興味をもって取り組んだと答えた児童が80%だった。	A	・アンケートは全学年を対象なのでしようか。また、体力がついたことをどんな時に実感するのが知りたい。 ・地域と共働した活動は、児童が新しい発見をし興味を持つ内容になるよう検討してください。	ボランティア担当 特活主任 生活科・総合的な学習の時間主任	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒60%以上。	・全学年共通して、体育の授業開始前に運動場2周または体育館5周のランニングを取り入れ、「体力がついたと思う」の児童が80%以上を目指す。	B	・すべての学年において体育の授業開始前に運動場を2周または体育館を5周のランニングを行うことができた。児童の実態に応じて5分間走を行う学年もあった。 ・「体力がついたと思う」児童を把握するアンケートを3学期に実施する。	A	・すべての学年において、体育の授業開始前に運動場を2周または、体育館を5周のランニングを行うことができた。児童の実態に応じて5分間走を行う学年もあった。 ・アンケートを実施し「体力がついたと思う」児童は80%で、多くの児童が1年間を通じて体力がついてきていることを実感している。	A	・朝食の大切さの発信は、子どもたちにはもちろん保護者にも必要性を感じる。簡単な朝食レシピの紹介など、保護者を巻き込んだ発信に期待します。 ・体力、健康づくりのための運動は継続して行ってほしい。		体育主任
	●「望ましい生活習慣の形成」	●自分なりのめあてを立てて、それを達成できた割合80%以上。	・早寝、早起き、朝ご飯の大切さを、保健だよりを通して呼びかける。手洗い指導やブラッシング指導を実施し、より良い生活習慣の確立を図る。	A	・6月に栄養教諭を招き、朝食についての授業を4年生で実施することができた。1月には2年生で授業を実施する予定である。4月に全学年でブラッシング指導を行った。また、11月に1年生で手洗い指導を実施した。	A	・2年生と4年生で朝食の大切さについての授業を実施した。 ・5、6年生を対象にネット利用に関するアンケートを実施し、現状の把握を行った。 ・ほけんだよりを毎月発行し、望ましい生活習慣について項目ごとに取り上げ、啓発した。	A	・松浦小学校の先生方の取り組みに刺激をもらいました。 ・よりよい生活習慣を持続するための指導を行ってください。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日及び第3水曜日を定時退勤日とし、17時施設を原則とする。 ・一人一人が自分の仕事のやり方を見直し、タイムマネジメントを行う。	B	・年度当初は超過勤務時間が1月当たり45時間を超える職員が数名いたが、業務の優先順位をつけることと時間を意識して業務を行うことを共通理解したことで人数も超過勤務の時間も少なくなってきた。	A	・全職員の超過勤務の月平均は年間を通じて45時間以内であった。業務の優先順位と時間を意識した働き方が定着してきている。 ・会議の資料をオンラインで配付することで効率的に業務を行うことができた。	A	・ICT機器の効果的な活用は、今後ますます重要になってくると思う。 ・教職員の負担増にならないようは働き方改革の検討をお願いします。	教頭口	
	○学校行事の精選、スリム化を図る。	○1つ以上の精選及び1つ以上のスリム化を行う。	・学校行事ごとに「カエル(変える・帰る)会議」を設定し、DCAPサイクルを回す。	A	・アンケート集計をスムーズに行うためにFormsを使ったり、印刷の手間を省くために職員会議や連絡会の資料をオンラインでやりとりしたりすることで業務改善を行うことができた。 ・運動会と教育フェスタ(学習発表会)を半日開催したり、土曜開校日を年2回にしたりするなど行事のスリム化を図ることができた。	A	・アンケートの集計ではFormsを利用したりTeamsで情報交換をしたりして、効率的にICTを活用することができ、作業時間の短縮に繋がった。 ・儀式に向けての練習を減らしたり、行事をスリム化したりして授業時数を確保し、業務改善を図ることができた。	A	・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な行事が時間短縮になったり中止になったりしたが、行事を見直すきっかけにはなっていないか。今後も各種行事のスリム化を図っていくべきだと思う。 ・ICTの活用で効率的になり、情報の共有も可能になった。		教務主任口
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○職員アンケート「年度当初と比べ、特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」の割合を75%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・計画的に特別支援教育に関する研修を行ったことで、児童への支援の方法を理解し特別支援教育に関する専門性が向上したと考える教員が、年度当初よりも増えた。どのような研修を望んでいるかのアンケートを3学期に実施する予定である。 ・ケース会議については担任の要望等により4回実施し、情報共有した上で対応することができた。	A	・アンケートでは、特別支援教育に関する研修を通して専門性が向上したと考える教員は100%であり目標を上回った。来年度は更に、個への対応の平立てや支援計画の立案などの研修を計画的に行っていく。 ・毎週、気になる児童についての共通理解を図る時間を設定し、全職員で共通理解のもと対応することができた。	A	・気になる児童に対して、全職員で共通理解のもと対応ができていくのは高評価。研修を続け、一人一人の専門性を高めてほしい。 ・更なる専門性の向上を継続してほしい。	特別支援教育 コーディネーター	
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学びを目指して、算数科を中心に校内研究を進めた。伝え合う場面において自分の学習スタイルを選択することで自分で意思表示を行わせた。少しずつ、自分だけで考える自分との対話だけではなく友だちと考えを交流する他者との対話が多くなり、考えを伝え合う活動に関して児童の意欲の向上が見られた。児童の学習に対する意欲が高くなり、教材研究および問題提示の工夫や家庭学習の工夫を行う必要がある。 計画的に「心の広場」、「人権集会」を行うことで相手の気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができた。また、心のアンケートの実施、連絡会での気になる児童の情報共有を行いいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努めた。継続して担任対応だけでなく組織として対応する必要がある。特別支援教育については個別の支援計画、教育計画をもとに保護者と連携しながら取り組んでいく必要がある。 体育授業前のランニングや昼休みの外遊びの励行を行った。運動場南側の自然公園でも体を動かしくよく遊んでおり、体力がついてきたと考える児童が多くなる。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で縦割り班での活動が少なくなったが、来年度は長縄大会等を実施したい。 										